

## 視点(1301)

### 前人未到の国家目標と観光立国!!

政府が観光を地域活性化の切り札として、訪日外国人を2020年までに2,500万人、将来的には3,000万人を目標としています。2008年度の訪日外国人数は777万人から見て大胆な目標です。しかし、フランスは7,930万人、アメリカは5,803万人、スペインは5,732万人、中国は5,305万人、イタリアは4,273万人、イギリスは3,019万人で、このうちフランスとスペインは国内人口を上回る国際観光客数となっています(2009年・国際観光白書)。

今、日本は2010年度中にGDPで中国に抜かれ、世界3位の位置になります。日本人が持つ能力及び技術の底力を発揮して2020~2030年にはもう一度、「日はまた昇る・日本の時代」への日本経済の再生物語が必要です。

そのためには常識の範囲内での目標ではなく、**前人未到の国家目標**(日本再生のために日経新聞が学生に公募したアイデア・慶応大学 大谷 美保子さんが提唱した言葉)が必要です。そして、前人未到の国家目標に国家と国民が総ぐるみで挑戦することが、日はまた昇る日本の時代を実現させることとなります。

額賀信氏(ちばきん総合研究所会長)が日本の国際観光客数(訪日外国人)の前人未到の国家目標を、「日本経済新聞・経済教室」(2010年8月18日)で掲げています。

国際観光が経済にインパクトを与えるためには、日本の人口を国際観光客数が上回る必要がある。もし本気で「観光立国」を目指すのであれば、訪日外国人は「**1億人**」を目指すべきである。もちろん、その1億人は直ちに達成できるわけではないので、中間目標として2020年に5,000万人とすべきで、その数字は夢ではない。世界観光機関(UNWTO)の予測によれば、国際観光客数は2010年に10.1億人、2020年に15.6億人と、今後10年間で飛躍的(5.5億人増)に伸びる。しかも、その中心は東アジアである。何よりも中国をはじめとする東南アジア等の周辺諸国の所得上昇が続いている。それは潜在的な訪日観光客需要を急激にふくらませている。

仮に訪日外国人5,000万人が実現すれば、消費額は次の通りとなる(筆者加筆を含む)。

#### ①2008年度の訪日外国人の消費額

- ・ 777万人×16.7万円(1人当たり消費額) = 1兆3,000億円(消費額)
- ・ 1兆3,000円×1.12(誘発係数) = 1兆4,560億円(付加価値誘発額)

#### ②2020年の政府目標訪日外国人の消費額

- ・ 2,500万人×16.7万円(1人当たり消費額) = 4兆1,750億円
- ・ 4兆1,750億×1.12(誘発係数) = 4兆760億円(付加価値誘発額)

#### ③2020年の額賀氏が提案する訪日外国人の消費額

- ・ 5,000万人×16.7万円(1人当たり消費額) = 8兆3,500億円(消費額)
- ・ 8兆3,500億円×1.12(誘発係数・本当はもっと大きくなる) = 9兆3,520億円(付加価値誘発額)

※訪日外国人5,000万人の場合の誘発係数は、基準値1.12より大きくなるのが想定される。なぜならば、外国人が宿泊するためのホテルやショッピングモールの新增設をはじめとして、大きな設備投資が誘発されると考えられるからである。

そもそも目標数字とは自然に実現できるような数字ではなく、工夫と努力の結果として実現できるものでなければならない。1億人という目標を掲げ、その数字を本気で目指すことを国民が確信したとき、投資が本格的に動き出す。日本は、我が国が思っている以上にすばらしい国だ。海外の人は必ず来る。

「2020年に5,000万人、将来的には1億人」という目標を掲げて誘致に励み、受け入れ体制を整えれば、観光は日本経済だけではなく、日本社会を変える力を発揮するだろう。1億人の目標となれば消費額は16.7兆円(付加価値誘発額は18.7兆円)の巨大金額になります。

観光だけでなく、あらゆる面で前人未到の国家目標を掲げ、国民総ぐるみで目標を達成しようではありませんか!!

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup><sup>4</sup>

代表 六 車 秀 之